

第4回 学校外での子供の多様な学びに関する有識者会議 議事要旨

開催日時：令和6年4月19日（金曜日） 13時00分から15時00分

開催場所：都庁第二本庁舎31階特別会議室26

出席者：秋田喜代美座長、今村久美委員、加瀬進委員、川崎由起子委員、
中島さち子委員
宮尾益知委員（オンライン出席） （以上6名）

■議題

(1) 学齢期の子育ちに関する令和6年度の取組について

○ 学齢期の子育ちに関する令和6年度の取組内容について説明。

<委員からの主な意見>

- ・学校内で不登校支援に関わる人たちがグッドプラクティスを共有し、学び合ってさらなる支援の充実に繋げられる仕組みがあると良い。
- ・不登校支援にあたり、教員、フリースクールのスタッフ等、子供を支える多くの大人が子供の情報を共有し、連携を図ることが重要。
- ・集団の中で一緒に活動し、他人とどのように関わっていけばよいのかを学ぶことも重要である。
- ・不登校支援に携わる特定の先生が孤立しないよう、意見交換や情報共有等ができる環境を構築し、学校全体で不登校の子供たちを支えられるようにしていくと良い。
- ・例えばアートに造詣の深い人材を学びの場に招くなど、子供たちがグループ活動の中で、興味関心を持ちながら様々な体験・経験ができるようになると良い。

(2) 学校外における子供の多様な学び・居場所の創出に向けた今後の進め方について

○学校外における子供の多様な学び・居場所の創出に向けた、今後の方策のあり方について説明。

<委員からの主な意見>

- ・サポートプランの理念や趣旨を理解いただきながら、多くのフリースクールが参画しやすい取組にしていくことが重要。
- ・サポートプランの作成に留まることなく、その後サポートが有効に機能しているか、具体的には子供にとって安心できる居場所となっているか、心のケアや学びの現状がどうなっているかなど、常に検証確認しながら、スタッフや保護者との間で共有・更新に取り組んでいくことが重要。
- ・サポートプラン作成にあたり、フリースクール同士の交流会や勉強の場など、繋がりを作る仕組みがあると良い。
- ・サポートプランの作成自体が目的ではなく、フリースクールのスタッフや在籍校の先生方が連携し、プランの更新等を通じて、適切なリソースとの連携の検討など支援の更なる充実に繋げることが大切。こうした考えを、研修等を通じてフリースクール側に伝え理解してもらうことが重要。
- ・学校内で不登校支援に携わる教員等が多様な教え方や支援を行えるよう、研修の場を設けられると良い。
- ・子供とアーティストや研究者、エンジニア等の専門家をマッチングさせてワークショップをする取組があると良い。
- ・不登校支援を個人で行っている方もいれば、事業やビジネスとして行う企業もあるなど、多様な運営主体が存在する点について、改めて認識したうえでフリースクールへの支援を検討する必要がある。
- ・不登校の子供への支援という観点か、多様な学びの選択という観点か、どちらの支援も重要であるが、一方で政策の軸足をどこに置くかということも重要。
- ・まずは不登校の子供への支援を軸足として政策を進めるのが良い。